

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者	安江 麻里				
使用教科書	東書「新編化学基礎」(生基 702)	副教材	ニューサポート新編化学基礎		
スクーリング	必要出席時間数	2 単位×4 = 8 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	2 単位×3 = 6 枚			
期末試験	合格得点目標	20 点以上	考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素	○	○□		No.1	○	○	○	1 5
5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 (1 節 原子の構造)	○	○□		No.1 5/12 No.2	○	○	○	2 5
6	(2 節 電子配置と周期表) 2 章 化学結合 (1 節 イオンとイオン結合、2 節 分子と共有結合)	○□	○□		No.2 6/16 No.3	○	○	○	2 5
7	(3 節 金属と金属結合、4 節 化学結合と物質の分類)	○□	○□		No.3 7/14	○	○	○	4
8	試験対策								
9	前期期末試験 テスト直し 3 編 物質の変化 1 章 物質量と化学反応式 (1 節 原子量・分子量・式量～3 節 溶液の濃度)	○□	○□	○□	No.4	○	○	○	5
10	(4 節 化学反応の表し方～5 節 化学反応式の表す量的関係) 2 章 酸と塩基 (1 節 酸と塩基、2 節 水素イオン濃度と pH)	○□	○□		No.4 10/13 No.5	○	○	○	2 5
11	(3 節 中和反応と塩の生成、4 節 中和滴定) 3 章 酸化還元反応 (1 節 酸化と還元、2 節 酸化剤と還元剤)	○□	○□		No.5 11/10 No.6	○	○	○	2 4
12	(3 節 金属の酸化還元反応)	○□	○□		No.6 12/15	○	○	○	4
1	試験対策			○□		○	○		2
2	後期期末試験(年) テスト直し (4 節 酸化還元反応の応用)					○	○	○	4
3	終章 化学が拓く世界					○	○	○	6